

令和5年度 学校評価 小学校結果

令和6年3月末 学校教育課まとめ

No.	学校名	1 中期的目標	2 今年度重点目標	3 学校自己評価結果				6 学校関係者評価			5 総合	表示以外の 評価分野		
				No.	分野	評価項目・取組内容	取組状況改善方策	評価項目	実施方法	総合				
1	精道小学校	自ら学び 自ら歩む子の育成	(1)学習の基礎・基本を徹底し、自ら学び鍛える主体的な児童の育成 (2)命と人権を大切にす心の教育の充実 (3)保護者や地域と連携した特色ある開かれた学校経営の推進	2	2	人権教育の推進	2	「すべての児童が命を大切に、いきいきと学校生活を送ることができるよう、一人ひとりに居場所のある集団を形成する」を目標に掲げて取り組んだ。今年度は「ジェンダー平等教育」を重点項目として取り組んだ。	B	○7、8月に講師を招いてLGBTQについて全教職員で学ぶ機会を作った。そして、夏休み中に先進的な取り組みを行っている市町の実践をもとに精道の取り組みをまとめて、9月の人権(道徳)参観において、保護者とともにLGBTQを考える授業を全クラスで実施することができた。 ○震災をベースとした防災教育は、追悼式・語り継ぐ会など学年の発達段階に応じた内容で継続して実施できた。	○防災教育については、若い職員も増えていく中、全職員の意識を高めて、語り継ぐことをベースとした精道小の特色を深めていく必要がある。 ○LGBTQについては、学校の職員だけではノウハウが不十分であるため、関係機関との連携が重要である。	1月26日開催の学校評議委員会では、特に問題点の指摘はなかった。	概ね良好な評価をいただいた。学校行事など創意工夫しながら取り組むことができたことはよかった。地域人材を活用して、教育活動を進めていくことについて話題が出た。今後も安心・安全な学校で、一人一人の子どもの成長を大事に育んでいってほしい。	授業研究
2	宮川小学校	笑顔育てる～「共に生き 自ら学び 創造する子ども」の育成～	(1)地域力を活用し、学校情報発信(学校HP・学校だより等)による信頼関係構築 (2)基礎的・基本的な知識技能を習得し、タブレット端末等を学習ツールとして活用する学力向上の推進(関わり合い、学び合う子どもの育成) (3)いのちと人権を大切にす心の教育の充実	2	2	学習指導	2	子どもたちが関わり合う場をいかに設定し、子どもたち同士ともに学び合う姿勢を育む授業づくりを推進していくか	B	関わり合い学び合うためには「聴く力」が必要と考え、今年度は「聞き合い」から「対話」が生まれる授業をめざして『サブテーマとし「傾聴三動作」を全クラスに掲示し教職員間で共通理解した。一人一台タブレットを活用して、発表するための資料を集めたり、家庭で課題に取り組んだりしながら、急な学級閉鎖や臨時休校などにも対応できるように活用を進めた。	「聞き合い」ができていない状態についての共通理解が不十分であったため、来年度も引き続き「傾聴三動作」を示しながら授業について考えていく。一人一台タブレットの活用について、正しい使用方法について保護者との連携をさらに深めていく必要がある。また、インターネットでのトラブルについても保護者への啓発が必要がある。	○保護者アンケートの結果を、次年度の実践に生かそうとしている。 ○ミマモルアンケートによる回答と紙媒体での回答と保護者が都合の良い方を選ぶようにしている。回答率は75%を超えており、来年度も続けていく。	コロナが5類になって、以前に近い形で感染症対策をしながら、新しい形の実践等には大変苦労があったと思います。子どもと関われる機会が増えて嬉しい。今後引き続き学校に協力できる場面では協力したい。	学校運営
3	山手小学校	学校教育目標「えがお☆かがやく」を実現するために、「相手のことを考えた行動」ができる子どもの育成に努める。	(1)相手意識をもった「きく(聴く・訊く)」ことのできる子どもの育成 (2)互いに認め合い、共に生きる子どもの育成 (3)自ら考え、正しく判断し、行動できる子どもの育成	2	1	学力の向上	1	○子どもの「きく」力をつける。 ○課題解決に向けた効果的な学習活動となる手立てを考える。	B	○「きく」力について、各学年の実態を把握し、そこから見えてきた課題について、どのような手立てを講じて、指導するのかについて、毎月の授業推進委員会で話し合いを進めてきた。また、一人ひとりの公開授業における指導案に、「きく」力をつけるための指導内容を記載した。 ○「課題解決に向けた効果的な学習」とは、問題解決学習をどのように仕組むかである。そのために、互いに「ききあう」(聴く、訊く)を中心とした授業改善を行った。	「きく」力の段階、「話す力・きく力の10か条」「話す力・きく力をつけるための指導方法」などを随時更新し、学校全体での共通理解を図る。	アンケートの実施方法等については、特に意見なし。	○いじめ問題への取り組みについて、今後も充実させていくことが大切。 ○先生たちがしっかり子どもたちへ目を向けることで、子どもたちの様子は変わってくるので、丁寧にかかわっていくことを継続してほしい。	心の教育の充実

No.	学校名	1		2		3				4		表示以外の 評価分野		
		中期的目標	今年度重点目標	学校自己評価結果				学校関係者評価						
				No.	分野	評価項目・取組内容	取組状況改善方策	評価項目	実施方法	総合				
4	岩園小学校	【学校教育目標】学び合い 高め合い ～未来を切り拓く生きる力の育成～	(1)互いに認め合い、尊重し、関わり合う良さが感じられる学級づくり (2)子どもが主体的に取り組む授業づくり (3)生活規律・学習規律の徹底(そうじ・あいさつ・授業) (4)自己肯定感を高め、自分の夢や目標など将来について考えられる子の育成	2	2	子どもたちが主体的に取り組む授業づくり	2	○教師の指導力を向上させる。 ○「話す力」「聞く力」を育てる。	B	○オープncラスウィークをおこない、教師が互いに授業を見合ったり、日頃から授業について話したりする機会を設けている。また、全員が公開授業研究を実施し学年を中心に事後研習の活用や主体的を引き出すための手立てを指導案に明示している。ミニ研修会を月1回程度実施。 ○話す力や聞く力を意識して、授業等での場の設定等を行い、進めてきた。週1回「岩っ子タイム」を設けて対話力向上にも積極的に取り組んだ。	○ミニ研修会により授業力が向上しようとして取り組んでいる。教育委員会主催の研修や校外研修にも積極的に参加し、自己研鑽を積むことができた。 ○「話す」「聞く」について児童のスキルは向上した。しかし、授業の場面や日常で学んだことを生かしているかは検証が必要である。授業の中でどう深めていくのが授業本来の改善について議論していきたい。来年度はスリンプログラムを全校で実施する。	保護者・児童からのアンケート分析し、次年度の課題を示して教職員・保護者に周知している。教職員アンケートで部会ごとに分析および新たな方向性を示し、業務改善や校務分掌に関することなどについても全体で共通理解している。	インクルーシブ教育の推進を保護者への啓発を含めて積極的に取り組んでいる。一斉型の指導だけでなく、子ども達が自ら課題を見つけ学ぶ「探究型の学び」を意識して来年度は取り組もうとしている。それに伴い、タブレットの有効活用についても推進していく意図が理解できた。	互いに認め合い、尊重し、関わり合う良さが感じられる学級づくり
5	朝日ヶ丘小学校	「共に学び 支え合う子ども」	(1)教育の基礎・基本を大事にして、安心して、落ち着いて過ごせる学校にする。 (2)学び合い、支え合いを大切にできる学校をつくる。 (3)体験活動や読書を大切に、心豊かな子どもを育てる。	2	1	学び合い 支え合い	2	○教師は児童が共に学び合い支え合うことができる授業の展開を行っているか。 ○学び合う環境づくりを一層充実させるために、学習規律の保持と、信頼関係の構築された学級経営が行われているか。	B	○全校授業研究会を低中高学年からそれぞれ1名および全教員一授業公開を行った。児童の様子を中心に交流し、「対話から生まれる学びを大切に授業づくり」に重点を置き、研究を深めることができた。 ○「聞き合いの輪」みとめられる子ども、くらべられる子ども、つなげられる子どもの具体的な子どもの姿を明確にし、子どもと教師が共有しながら学習活動に取り組むことができた。	児童、保護者ともに、「できるように」なったことや分かるようになったことが増えている」という項目に對して、90%以上が「そう思う、少しそう思う」と回答しており、学力向上を実感していることがわかる。 来年度は「共に学び高め合う授業」～「聞き合いの輪」から生まれる学びを大切に授業づくり～をテーマとしてさらに研鑽を積んでいく。	昨年12月に保護者・児童・教職員に15項目のアンケートを実施した。保護者アンケートが昨年年度に引き続き文書で実施した。回収率は84%でとても高い。	学校の取り組みについては、保護者の評価はほぼ90%以上の評価となっており理解されている。さらに丁寧な取り組みを進めてほしい。	体験・読書活動の充実
6	潮見小学校	学び合い、支え合う 心豊かな子どもの育成	(1)思いやりのあるやさしい子どもの育成～共感性に着目して～(多文化共生・国際理解教育の充実) (2)思いや考えを聴き合える子どもの育成～一人ひとりの学びに寄り添って～ (3)家庭、地域との連携を深め安全・安心な学校運営の実施	2	1	教育課程	1・2	○全教員による授業公開及び4回の全校授業研究会の開催 ○学級会の在り方研究 ○外国にルーツのある子どもたちへの日常的な教育活動の充実	B	○学力向上支援プランも含め全校授業研究会を年間4回開き、「学び合う学び」に向けて研究を行い、授業改善を図ることができた。事前事後の研究も含め、成果と課題を教職員が共有し、より研究テーマに沿った取り組みを行うことができた。 ○児童会行事や学級会において児童が主体的に話し合い活動を通して取り組みができるように、授業推進部会において実践交流を行った。 ○日本語指導推進教員を中心に全教職員で共通理解を図りながら、日本語指導の充実を図るため体制づくりやこくさいルームの環境整備等に取り組むことができた。	コロナ禍における制限がなくなり、多くの方が来校される様子について幅広く意見を聞く機会を設けることができた。今後も多くの方に子どもたちの様子を知ってもらい、大人も対話をおとした意見交流を行うことで、学校運営に生かしていくことも大切である。外国籍の児童に対する支援については、通訳やボランティアの募集方法等の助言をもとに次年度へつなげていく必要がある。	教職員による学校評価、保護者による学校評価に加え、児童の振り返り、各行事ごとにも実施した保護者からのアンケート調査と学校関係者評価委員会等で意見を聞いて総合評価をした。	感染症等の対策は一定必要だが、多くの方に来校して子どもたちの学校における、幅広く意見を聞きながら、学校・保護者・地域と連携し、子どもにとってより良い教育活動を進めていく。	防災・安全教育

No.	学校名	1	2	3				4		5	表示以外の 評価分野			
		中期的目標	今年度重点目標	学校自己評価結果				学校関係者評価		総合				
				No.	分野	評価項目・取組内容	取組状況改善方策	評価項目	実施方法					
7	打出浜小学校	<p>○すべての児童が自らを高め、支えあうことができる学級(学年)づくりに取り組む。</p> <p>○学校教育活動全体を通じて、命を尊び人権を大切にすることを心や規範意識を育てる。</p>	<p>(1)各教科の基礎的・基本的な事項を明確にして、確実に定着させる。</p> <p>(2)温かい人間的なふれあいを大切にして、児童一人ひとりの自尊感情を育てる。</p>	2	1	教育課程	1	<p>○子どもたちの学ぶ意欲を高める授業づくりを工夫する。</p> <p>○ICT機器を用いて、子どもたちが互いに教えあう場面を増やす。</p> <p>○授業改善により生じた時間を、子どもたちに向き合う時間にする。</p>	B	<p>○児童の実態を捉え、授業内容・発問を工夫し、ペア・グループ学習で児童同士が関わりあいながら学習を進める。</p> <p>○ICT機器を活用して、児童が「やりたい」と意欲を持って考え、調べたことをグループや全体で共有しながら学びを深める。</p> <p>○20分休みや昼の休み時間、放課後等を利用して、一緒に遊ぶなど児童と関わる時間を増やし、信頼関係を深める。</p>	<p>○児童の生活や学習など一人一人の良さを大切に評価し、その成果や現状を保護者に説明している。</p> <p>○タブレットを用いての授業や宿題が多く、しっかりとICT教育をされていると思います。</p>	<p>保護者を対象としたアンケートを年1回、大きな行事毎に保護者アンケートを実施している。また、学校評議員にも年1回アンケートを実施しており、資料収集は十分行われている。</p>	<p>○震災を風化させない為の講演や、iPadを使いこなす子どもたちを見て、教育が時代にあっていないと感じます。</p> <p>○地域を見守る住民が、学校行事に参加することも地域との繋がりを強めていくことになると思います。</p>	生活指導
8	浜風小学校	<p>全教育課程を通して「自ら学び 共に生き 創造する子」の育成に努める。</p>	<p>(1)学び合う子の育成</p> <p>(2)お互いに認め合い、共に生きようとする子の育成</p> <p>(3)主体的に創り出し、活動できる子の育成</p>	2	1	学力の向上	1	<p>○授業やスキルタイムの中で、基礎学力の定着・向上を図る。また、タブレット有効活用の研鑽を積んでいく。</p> <p>○「相手意識」を持った言語活動を中心に授業を組み立て、「学び合う」学習環境を整える中で、主体的・対話的で深い学びに取り組んでいく。</p> <p>○より本に親しむ子を増やすべく、読書活動の推進をおこなう。</p>	B	<p>○保護者アンケートにおいて、基礎学力の定着については、昨年度から着実にいい評価が増えている。すべての学習の礎になるので、来年度も引き続き基礎学力の定着に力を入れていく。タブレットの活用については、本年度の授業研究推進の重点目標の一つとして取り組んだ。活用率は市内他の学校と比べても高い。</p> <p>○学び合うことを意識した授業改善を進め、土壤を作ること、主体的に学ぼうとする児童が増えた。</p> <p>○図書室の本の年間一人当たりの平均貸出し冊数は、41.8冊(R3)、62.6冊(R4)、82.5冊(R5)と、ここ数年、増えている。傾向としてはよくなっているが、余暇の時間にまで本を手にとる子どもはまだ少ないことが課題である。</p>	<p>○教員が、子どもの状況理解をしっかりと行い、子どもたちにとってわかりやすい授業を行うとともに、子どもたちの生活や学習の状況等を保護者に伝え、連携することが大切である。</p> <p>○読書は子ども時代に習慣化させておきたいので、小学校での取り組みが重要である。また、タブレットは有効活用をより一層進めていただきたい。</p>	<p>保護者アンケートの結果をもとに、学校関係者にご意見をいただき、評価を行っている。</p>	<p>高い評価が維持されている。特に「学校は、子どもにとって楽しみなところである」の高評価が今後も維持できるように、取り組んでいただきたい。決して低くはないが、回答率(81.4%)をさらに高めるように努力していただきたい。</p>	心の教育の充実